

浴衣の文様に関する研究

寺田 恭子* 内山 道子** 知野 恵子*** 渡邊 芳道****

The Study of the Motif for Yukata

Kyouko TERADA, Michiko UCHIYAMA

Keiko CHINO, Yoshimichi WATANABE

1. はじめに

四季の移ろいが日常生活の中から遠のいてしまいがちな現在であるが、美しい自然や豊かな四季に恵まれた環境で、日本人の美意識によって造形された文様は、私たちの衣服、建造物、陶磁器、工芸品など日本の生活文化に伝承されてきた。文様の歴史は古く奈良時代から各時代を経て、現代へと受け継がれている。特に江戸時代に創造された文様は、いかにも洒落て洗練されているものが多く、現在でもジャポニスムとして世界中で高く評価されている。これらの中で特に日本の伝統文化の一つであるきものには、自然環境の様々な事物をモチーフとして文様化され、多彩に表現されている。しかし、日常生活においてきものに接する機会が稀少になった現在では、文様に対する関心は薄れつつある。その中でも浴衣はここ数年来若者の夏のファッションアイテムとして定着し、夏を華やかに彩っている現代のきものとして脚光を浴びている。この事実は「きものに関するキーワード検索研究」(1～4報)からも確認することが出来る。

本研究は1954年～2001年までの48年間のきもの専門誌「美しいキモノ」の夏号に掲載されている浴衣の情報記事を対象に調査した。浴衣の文様がどの様なモチーフで構成されているか、考察した。

2. 研究方法

(1) 分析資料

きもの専門誌「美しいキモノ」夏号 出版社 婦人画報社

(2) 分析期間

1954年から2001年 48年間

(3) 分析項目

掲載された浴衣の文様

* 服飾美術科 第3被服構成研究室

* * 服飾美術科 第3被服構成研究室

* * * 服飾美術学科 第2被服構成研究室

* * * * 服飾美術学科 ファッションビジネス研究室

(4) 分類方法

きものの文様は種類が大変多く、地球上の人間を取り囲むすべての事物を含み多岐にわたっている。そこで浴衣の文様を一点ずつ抽出し、単独柄と複合柄に分類し、参考文献をもとに一般的なきものの文様の分類方法に従い、次の7種類に分類した。

- 1) 植物文様……………花、草、木などすべての植物、想像上の植物
- 2) 動物文様……………鳥獣類、魚介類、人間、想像上の動物
- 3) 生活・器物文様……………人間の使用する器具、工具、道具、建築物、装飾具など
- 4) 自然・風景・天文文様……………自然、風景、天文を描いたもので写實的、絵画的図案構成など
- 5) 幾何学文様……………直線および曲線により構成された文様
- 6) 歌舞伎文様……………江戸時代の歌舞伎役者が芝居の扮装に着用して流行した文様や、役者自身で考案した文様
- 7) その他……………1)～6)に入らない文様

3. 結果考察

(1) 男女別、子供別にみた文様の年代別推移

浴衣の文様を抽出し、男女別、子供別に単独柄と複合柄に分類し、48年間を5年毎に分けて、年代を前半と後半に区分し、集計すると表1の通りである。婦人の単独柄が696出現し全体の約50%をしめ、最も多い事がわかった。

表1 文様の年代別推移

種類別 年代		～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
婦人	単独柄	4	88	109	83	57	48	40	53	90	101	23	696
	複合柄	1	25	50	70	41	27	16	46	71	108	13	468
紳士	単独柄	0	0	7	11	9	9	3	15	25	16	5	100
	複合柄	0	0	1	4	8	0	1	10	17	16	2	59
子供	単独柄	0	0	0	0	5	5	1	16	14	4	0	45
	複合柄	0	0	0	0	0	0	1	7	4	2	0	14
合 計		5	113	167	168	120	89	62	147	221	247	43	1382

(2) 文様の種類

浴衣の文様数が最も多い婦人の単独柄について、分類方法に従って、植物文様、動物文様、生活・器物文様、自然・風景・天文文様、幾何学文様、歌舞伎文様、その他に分類した。植物文様は種類が多様なため、花・草花・木葉・食物の4つに細分した。それぞれの文様の割合は図1の通りである。植物文様の花が婦人の単独柄の41.81%で最も多い。次に幾何学文様は17.53%であった。続いて植物文様の木葉が9.63%で、動物文様が8.19%、植物文様の草花が7.33%、自然・風景・天文文様が5.75%、生活・器物文様が4.89%、その他が2.44%、植物文様の

食物が1.87%、歌舞伎文様が最も少なく0.57%出現した。植物文様の花が他の文様に比べ非常に多い事がわかった。また植物文様として花、草花、木葉、食物をまとめると、婦人単独柄全体の約60%をしめ最も多い事が分かった。

(3) 文様別モチーフの分析

今回は最も出現数が多く、種類が多種にわたっている婦人単独柄を分類することにした。分類した単独柄の植物文様の花・草花・木葉・食物、動物文様、生活・器物文様、自然・風景・天文文様、幾何学文様、歌舞伎文様、その他の文様にそれぞれどの様なモチーフがどの位出現しているか、48年間で5年毎に分けて年代を前半と後半に区分し、分析した。

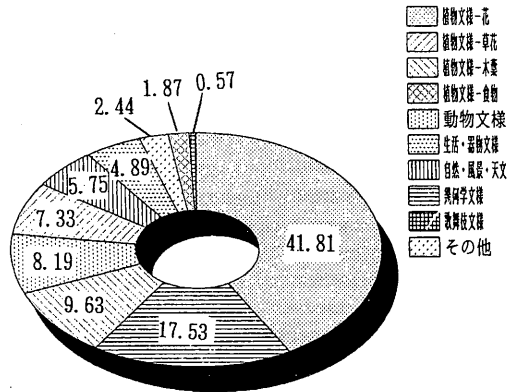


図1 文様の割合

1) 植物文様

① 花

花はモチーフ数が42種類あり全体で 291出現した。(表-2) その種類をみると初夏から夏の花のモチーフとして、紫陽花、しゃくなげ、ひまわり、朝顔、鉄線、ダリア、ほおずきなど。梅、椿、桜など早春から春の代表的な花。菊、桔梗など秋を代表する花。橙などの冬の花。またバラなどの洋花。夏以外の季節の花が多数出現している。盛夏に着装する浴衣の文様には夏に咲く花だけではなく、四季に咲く花々がモチーフとして描かれていることがわかった。

各モチーフの48年間の合計数をみると花の文様が69出現し最も多い。花がデザイン化されるなど、何の花か区別しにくい柄である。次に、菊・むじな菊・乱菊が32出現し、花の文様とともに50年代後半から2001年まで続けて出現しているのが特徴である。

年代別に出現数をみると90年代が多く、90年代前半では、菊、あやめなどの古典柄からチューリップ、バラ、ハイビスカスなど洋花も多く出現している。90年代後半にも同じ様な特徴がみられるが、ダリア、たんぽぽ、ほおずきが出現しているのが特徴である。また50年代後半は菊・桔梗、牡丹などの古典柄をはじめチューリップ、カトレア、ヒアシンスなどの洋花が数多く出現しているのが特徴である。

② 草花

草花はモチーフ数が17種類あり全体で51出現した。(表-3) その種類をみると夏草、露草、おもだか草など夏に咲く草花をはじめ、春の草花であるふきの葉や秋草などの秋の草花が出現している。また唐草、花唐草、牡丹唐草、菊唐草、桐唐草などの唐草文が出現しているのが特徴である。

表2 年代別文様の分析—植物(花)

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
菖蒲・花菖蒲・爪菖蒲		1		2				1		1	1		6
花			4	8	3	4	6	7	5	9	20	3	69
菊・むじな菊・乱菊			3	7	6	3	1	2	3	3	2	2	32
ひ ま わ り			3					1	2	3	3		12
桔 梗			1	2	4	1	2			1			11
百 合			1			1	1		1	1	3	2	10
チ ュ ー リ ッ プ			1						1	3	4	1	10
牡 丹			1	1		2			1		2		7
あやめ・あやめの葉				2	4	3	3			4	1		17
梅・しだれ梅・寒梅				3	1	5	1			1		1	12
バ ラ				2	3					4	1		10
桜・しだれ桜・小桜				1	1	1	1	1	2		2	1	10
あ さ み				1			1	1		2		1	6
藤				1	1		1				2		5
撫 子				1		1	1		2				5
蘭				2		1					1		4
マ ー ガ レ ッ ト				1							1		2
紫 陽 花					1	4	1	3	1	2	1	1	14
椿					1		2	3	1	2	3	1	13
カ ー ネ ー シ ョ ン					1						1		2
コ ス モ ス						1	1			1			3
朝 顔							1			3	1		5
ハ イ ビ ス カ ス									1	1			2
し ゃ く な げ									1		1		2
鉄 線										1	1		2
花 束			2										2
カ ト レ ア			2										2
ヒ ア シ ン ス			1										1
ス イ ー ト ピ ー			1										1
水 仙			1										1
ク ロ ー バ				2									2
辻 花								1					1
華 文									1				1
花 水 木									1				1
カ ラ										1			1
芝 桜										1			1
花 か ご										1			1
南 洋 植 物										1			1
橙										1			1
ダ リ ア											1		1
た ん ぼ											1		1
ほ お ず き											1		1
合 計		1	21	36	26	27	23	20	23	47	54	13	291

表3 年代別文様の分析—植物(草花)

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
秋 草			1	1	2	2		1		3	1		11
唐草・花唐草・牡丹唐草													
菊 唐 草 ・ 桐 唐 草			1	2				3	1	2			9
草 花			2	2			1				1	1	7
夏 す き			1					1	1				2
す 葉					1	1	1	1			1		4
露 草					1	1					1		3
ほ た る 草			2							1	1		2
つ る 草			1										2
七 草				1									1
ふ き の 葉					1								1
お も だ か							1						1
稲 草									1				1
南 国 の 草 花										2			2
萩											2		2
露 葉											1		1
野 の 草											1		1
合 計		0	8	6	5	3	3	4	4	8	9	1	51

各モチーフの出現数をみると秋草が11と最も多く、続いて唐草文が9出現した。秋草は50年代後半から70年代前半まで続いて出現し、80年代前半から90年代にも出現している。また唐草文は60年代前半、80年代前半から90年代前半まで続いて出現している。

年代別に出現数をみると50年代後半と90年代に多く出現した。

③ 木葉

木葉はモチーフ数が20種類あり全体で67出現した。(表-4) 竹・竹林、松・若松・唐松、やしの葉などの常緑樹やもみじ・夏もみじ、蔦・蔦の葉、いちょうなど紅葉する落葉樹の木葉が描かれている。

各モチーフの出現数をみるともみじ・夏もみじが16で最も多く、続いて竹・竹林が10出現している。もみじ・夏もみじは50年代後半から70年代前半まで出現している。竹・竹林は50年代後半に出現し、60年代後半から70年代後半、80年代後半から90年代前半まで続いている。

年代別に出現数をみると50年代後半から60年代後半に多い。

表4 年代別文様の分析—植物(木葉)

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
もみじ・夏もみじ			3	7	5	1							16
竹・竹林			4		1	1	1		2	1			10
木 葉			1	2	1								4
蔦・蔦の葉			1			1	2						4
松・若松・唐松				2	2		1			1	2		8
笹・笹の葉				1	2			1	1				5
芭蕉の葉				1						1			2
し ぶ		1											1
草 木			1										1
葉				3									3
しだれ柳・柳				1						1			2
木 枝				1									1
松 かさ			1										1
枝					1								1
ハ ツ					1								1
桜の小枝								1					1
松の葉									2				2
やし の葉									1				1
しだ の葉										2			2
いち ち											1		1
合 計		1	10	19	13	3	4	2	6	6	3	0	67

④ 食物

食物はモチーフ数が9種類あり全体で13出現した。(表-5) その種類は様々で身近な食物が描かれているのが特徴である。90年代後半が一番多く出現している。

表5 年代別文様の分析—植物(食物)

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
パイナップル				1									1
さやえんどう							1	1					2
ぎ ん だ ん							1						1
やまぶどう										1	1		2
ひょうたん										1			1
南国のフルーツ										1			1
ぶ ど う											1	1	2
バナナ											2		2
す い か											1		1
合 計		0	0	1	0	0	2	1	0	3	5	1	13

2) 動物文様

動物文様はモチーフ数が17種類あり全体で57出現した。(表-6) 蝶・とんぼ・ほたるなどの昆虫類、雁・鳩などの鳥類、メダカ・ふぐなどの魚類、ねこ・うさぎなどの動物、カニの甲殻類、おたまじゃくしの両生類など多くの種類が登場している。夏を代表するほたるや春の蝶、おたまじゃくし、うぐいすや日本で越冬する雁、その他季節に関係のない動物が出現している。

各モチーフの出現数をみると蝶が動物文様の中で63%をしめ、50年代後半から90年代後半まで続いて出現しているのが特徴である。

年代別に出現数をみると、60年代後半と90年代が多い。

表6 年代別文様の分析—動物

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
蝶			2	2	11	6	2	4	1	3	5		36
とんぼ	ぼ				1					3			4
カニ	二				1					1			2
雁					1	1							2
鳩			1										1
おたまじゃくし				1									1
メダカ	力			1									1
ふぐ	ぐ				1								1
ねこ	こ								1				1
魚										1			1
貝	散									1			1
千鳥	鳥									1			1
ほたる	る										1		1
うぐいす	す										1		1
うさぎ	ぎ										1		1
金魚	魚										1		1
羽												1	1
合 計		0	3	4	15	7	2	4	2	10	9	1	57

3) 生活・器物文様

生活・器物文様はモチーフ数が22種類あり全体で34出現した。(表-7) 生活用具、建物、玩具類など生活に関する様々な物が登場している。扇面・扇が60年代前半から70年代前半、傘・蛇の目傘・番傘が70年代前半、80年代に出現している。その他の文様は50年代前半から2001年までモチーフ数も出現数も少数であるが各年代に出現している。

表7 年代別文様の分析—生活・器物

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
扇 面	扇			2	2	1							5
つづみ	み			1				1					2
うちわ	わ				1				1				2
傘・蛇の目傘・番傘						1		1	2				4
分銅	銅					1	1						2
力ギ	ギ	1											1
切手	手		1										1
自動車	車		1										1
西洋風建物	物		1										1
バンスル	ス		1										1
パソビ	ビ		1										1
むすび	文			1									1
御所車	車				1								1
ちよちん	人				1								1
網						1							1
古銭	銭						1						1
十両	支								2				2
かざり	し									1			1
手まり	り										2		2
玩具	柄										1		1
折鶴	鶴										1		1
七夕飾り	り											1	1
合 計		1	5	4	5	4	2	2	5	1	4	1	34

4) 自然・風景・天文文様

自然・風景・天文文様はモチーフ数が22種類あり全体で40出現した。(表-8) 花火などの風景、流水などの水に関する自然文様、星などの天文文様が出現している。波・波頭が60年代前半、70年代前半から90年代前半に出現している。夏の風物史である花火は80年代前半、90年代前半に出現し2001年まで続いている。

年代別に出現数をみると、60年代前半に多かった。

表8 年代別文様の分析—自然・風景・天文

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合 計
風	景		1	1									2
流	水		1					1					2
波	波 頭			3		1	1	1	2	1			9
花	火							1		1	2	2	6
	星			3									3
観	世 水			1									1
天	平 模 様			1									1
大	名 行 列			1									1
三	日 月			1									1
木	目			1									1
絵	巻				2								2
平	安 風 俗				1								1
	家				1								1
庭	園				1								1
文	明 開 化				1								1
東	海 道				1								1
川	の 流 れ						1						1
里	の 風 景						1						1
茶	屋 辻							1					1
花	辻 筏								1				1
	滝									1			1
水	玉 柄										1		1
合	計	0	2	12	7	1	3	4	3	3	3	2	40

5) 幾何学文様

幾何学文様はモチーフ数が52種類あり全体で122出現した。(表-9) モチーフ数が非常に多く、一つ一つのモチーフの出現数が少ないのが特徴である。また七宝つなぎ、菱つなぎや麻の葉くずし、さや形くずしなど幾何学文様に用いる特徴的な文様表現が見られる。

各モチーフの出現数をみると豎縞が最も多く18出現している。

年代別に出現数をみると、50年代後半から60年代前半に多かった。

6) 歌舞伎文様

歌舞伎文様はモチーフ数が4種類あり全体で4出現した。(表-10) ^{よきこときく}斧琴菊が80年代後半に ^{かまわぬ}釜輪奴、隈取り、松縞が90年代前半に出現した。

7) その他

1) から6) の文様に属さない文様をその他の文様とした。文字文様や紅型風文様などモチーフ数が8あり全体で17出現した。(表-11)

表 9 年代別文様の分析—幾何学

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
縦	縞		6	4		1			2	2	2	1	18
	縞		4			2				3			9
亀	甲		2	1	1	2							6
格	子		1	2		2				1	1		7
立	涌		1	1	2							1	5
市	松		1				1		1			1	4
水	玉		1	1			1				1		4
菱	形		1	2									3
弁	子		1	1									2
幾	何		1										1
渦	模		1				1						2
	巻			1	1						1		3
	丸			1		1	1						3
矢	羽			1			1		1				3
松	皮			1						1			2
青	海				1	1	1			1	1		5
七	宝					1			1				2
麻	の								1	1	1	1	4
七	宝							1	1	1			2
く	さ	1							1	1			1
横	縞		3										3
よ	ろ		3										3
と	ら		1										1
斜	め		1										1
ひ	び		1										1
み	だ		1										1
み	だ		1										1
針	ぬ		1										1
井	桁		1										1
網	目		1										1
十	模		1										1
し	ま		1										1
麻	の			1									1
四	葉			1									1
雲	取			1									1
雲	れ			1									1
籠	目			1									1
蝶	く			1									1
さ	や				1								1
	線				1								1
業	平				1								1
菱	つ				1								1
破	れ							1					1
ベ	イ							1					1
扇	青								1				1
竹	縞								1				1
矢	縞										1		1
曲	線										1		1
丸	文										1		1
ギ	ン										1		1
ン	ガ										1		1
さ	や										1		1
破	れ										1		1
十	字										1		1
合	計	1	35	22	9	10	6	4	9	9	13	4	122

表 10 年代別文様の分析—歌舞伎

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
斧	琴								1				1
鎌	輪									1			1
隈	取									1			1
松	縞									1			1
合	計	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	4

表 11 年代別文様の分析—その他

種 類	年 代	～55	～60	～65	～70	～75	～80	～85	～90	～95	～00	～01	合計
文	字		1	2		1							4
紅	型		2	1									3
花	風			1			1						2
抽	紋				2		1				1		4
ア	イ		1										1
家	又			1									1
紋	風				1								1
絞	模						1						1
更	絞							1					1
合	計	0	4	5	3	1	3	0	0	0	1	0	17

4. 要 約

浴衣の文様を男女別、子供別に単独柄、複合柄別に分類すると、婦人の単独柄が最も多いことがわかった。婦人の単独柄を植物文様、動物文様、生活・器物文様、自然・風景・天文文様、幾何学文様、歌舞伎文様、その他に分類した。

(1) 植物文様が全体の約60%をしめ、最も多く出現していることが分かった。

花、草花、木葉、食物の中で花が最も多く出現した。花は夏に咲く花にかぎらず、四季に咲く花々が描かれていた。モチーフの中で最も出現数が多いのが花文様で9.91%である。菊・むじな菊・乱菊が4.60%で、3番目の出現数である。草花は春、夏、秋の草花が描かれている。木葉は常緑樹、紅葉する落葉樹の木葉が描かれている。食物は種類が様々で、身近な食物が描かれている。

(2) 動物文様は昆虫類、鳥類、魚類、動物、甲殻類、両生類など多くの種類が描かれている。蝶は5.17%で2番目に多い出現数である。

(3) 生活・器物文様は生活用具、建物、玩具類など生活に関する様々な物が描かれている。

(4) 自然・風景・天文文様は風景、水などに関する自然、星などの天文が描かれている。

(5) 幾何学文様は文様の種類の中でモチーフ数が最も多い文様である。しかし一つ一つの文様の出現数が少なかった。

(6) 歌舞伎文様はモチーフ数も出現数も少ないが歌舞伎文様として特徴的なものが出現した。

年代別に各文様の出現数をみると、50年代後半から70年代前半、80年代後半に多く、90年代には非常に多く出現している。これらの年代に出現数が多い要因は、高度経済成長期には、浴衣は生地で市場に定着していた時代であり、90年代はファッション傾向に回帰現象がみられ伝統文化が見直され、きものへの関心が高まり、バブル崩壊後のカジュアル化によって、簡単に着られる浴衣が若者の夏の新鮮なアイテムとして開化したためと考えられる。

5. まとめ

戦後48年間の浴衣の文様を分析した結果、婦人の単独柄が多かった。婦人の単独柄を分析すると、モチーフ数が213種類で出現数が696であった。

文様は写実的なものが様々に変化し、多様化され数多くのバリエーションがみられる。「美しいキモノ」に掲載された浴衣の文様から各文様の特徴的なモチーフを紹介する。

(1) 植物文様－菊（図－2）

植物文様は視覚的な美しさの再現を目的として現わされたものが多く、親しみ深い文様として長い間文様の主役をなしてきたことが分かる。

菊は奈良時代末から平安時代初期にかけて大陸から輸入されたもので、江戸時代に菊の栽培が大流行をし、いろいろな種類の菊が登場している。菊が意匠化され始めた時期はかなり早く、漆工を中心に進んでいった。桃山時代を経て江戸時代にバリエーションがますます増えていった。菊はきものの文様として最も多く用いられ、実際の季節は秋であるが浴衣などをはじめ、季節感を越え一年中愛用される文様である。

(2) 動物文様－蝶（図－3）

動物文様は願望の実現や呪術的効果を期待するところに、文様としての出発点を持つようであるが、蝶の文様は、色や形、飛ぶ姿の美しさの再現として現されていると思われる。平安時代以来、各時代において多くの衣裳に使われ、近世まで変わることなく虫の文様の主役である。

(3) 生活・器物文様－扇（図－4）

生活・器物文様は毎日使っている品々や暮らしの様子を文様化したものである。扇の文様は、夏に涼風をおこしたり、また儀礼や舞のとき手に持つ道具の一つ。日本で発明されたもので開いた形が先に向かって広がっていることから「末広」とよばれ、縁起のよいものとされている。平安時代には、多くの女性にもたれ、桧扇、中啓、舞扇、白扇などと発達するにつれて、様々な扇文が考案され、江戸時代には、小袖などにも多く用いられるようになった。

(4) 自然・風景・天文文様－波頭（図－5）

自然から生まれた文様は多種多様である。古くから波の文様は用いられている。波の形をいろいろな文様化したもので、さざ波、大波、荒波などその種類は多い。

(5) 幾何学文様－竪縞（図－6）

極端に単純化、象徴化された幾何学は、日本人の美的センスの素晴らしさを感じる。文様としての縞じたいは昔から存在し、その歴史は古代まで遡る。江戸時代後期の町方のきものを代表するものとしてあげられ、「いき」の美意識を背景に、町方の好みを強く反映して生じたものであると思われる。縞は一般に2本以上の直線が平行に配された文様をいう。竪縞、横縞、斜縞などがあり、直線のみならず、よろけ縞など線との組み合わせや変形などバリエーションが多様に考えられる文様である。

(6) 歌舞伎文様－隈取り（図－7）

歌舞伎の世界においては、浴衣は世間一般より一歩先んじて普及しており、舞台衣装や楽屋着として使われていた。表方や裏方、ひいき筋への配りものとするしきたりなどがある。江戸時代の歌舞伎役者は、各々独自の家紋や文様をもち、役者柄として現代も継承され用いられているものも少なくない。



1967年 むじな菊



1987年 乱菊



1999年 菊

図2 植物文様 — 菊



1969年



1985年



1992年

図3 動物文様 — 蝶



1968年 扇

図4 生活・器物文様



1983年 波頭

図5 自然・風景・天文文様



1987年 堅縞

図6 幾何学文様



1991年 隈取り

図7 歌舞伎文様

参考文献

- 1) 美しいキモノ, 東京, 婦人画報社, 1953, 創刊号～2001夏号
- 2) 熱田道子他: きものに関するキーワード探索研究 東京家政大学生活資料館紀要第2集, 1997, p.45～56.
- 3) 知野恵子他: きものに関するキーワード探索研究 (第2報), 東京家政大学博物館紀要第3集, 1998, p.75～87.
- 4) 寺田恭子他: きものに関するキーワード探索研究 (第3報), 東京家政大学博物館紀要第4集, 1999, p.91～103.
- 5) 渡邊芳道他: きものに関するキーワード探索研究 (第4報), 東京家政大学博物館紀要第5集, 2000, p.81～93.
- 6) 渡邊芳道他: 戦後の浴衣の軌跡に関する研究—着物専門雑誌における浴衣に関するテーマ分析—東京家政大学博物館紀要第6集, 2001, p.65～66.
- 7) 最新きもの用語辞典, 東京, 文化出版局, 1987.
- 8) 田中千代: 新・田中千代服飾辞典, 東京, 同文書院, 1991.
- 9) 北村哲郎: 日本の文様, 東京, 源流社, 1983.
- 10) きもの用語大辞典, 東京, 装道出版局, 1991.
- 11) ファッション辞典, 東京, 文化出版局, 1999.
- 12) 石崎忠司: きものの文様, 東京, 衣生活研究会, 1982.
- 13) 本吉春三郎: きもの文様事典, 東京, 婦人画報社, 1979.
- 14) 本吉敏夫: きもの文様図鑑, 東京, 婦人画報社, 1994.
- 15) 文様の手帖, 東京, 小学館, 1995.
- 16) 片野孝志: 日本の伝統文様事典, 東京, 講談社, 2000.
- 17) 日本・中国の文様事典, 東京, 株式会社視覚デザイン研究所, 2000.
- 18) 金田一京助: 新明解国語事典, 東京, 三省堂, 1995.